

大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校  
新築設計公募型プロポーザル評価・選定講評

【第2段階審査の経過】

第1段階審査を通過した5者によるプレゼンテーション（ヒアリング）の後、評価・選定を行った。まず、各社の技術提案書の内容と表現等が実施要項及び提案書作成要領に沿ったものかどうかの確認を行った。いずれも実施要項及び作成要領に抵触しないことを確認した上で、5者を対象として審査を進めた。

評価・選定にあたっては、5名の委員による評価に入る前に、各社の技術提案書の内容についてあらかじめ順にレビュー（振り返り）した後に評価に移った。評価は記名とし、あらかじめ設定された評価項目ごとに5段階の評価点数を記入、全員が記入後、事務局で回収し集計を行い、その結果を全員に配布して議論をした。

なお、第1段階での評価点はそのまま持ち越し満点20点として換算、第2段階（技術提案書・ヒアリング）の評価点（満点80点）とあわせて100点満点で総計点をまとめた。

あらかじめ公表している評価・選定基準に基づき、順位付けを行い、その結果をもとに議論をすることとした。順位付けの方法は以下の通りである。

- ① 総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者を上位として順位付けを行う
- ② 1位獲得数が同じ提案者が複数いる場合は、各委員の順位点の合計がより高い提案者を上位とする。
- ③ 順位点の合計も同じ場合は、上位順位の獲得数がより多い提案者を上位とする。
- ④ ②③も同じ場合は、総合評価点の合計がより高い提案者を上位とする。
- ⑤ 評価を基に委員で審議の上、設計候補者及び次点の設計候補者を選定する。
- ⑥ ただし、『業務実施方針及び手法』の評価項目で各委員の評価点の平均が48点未満である提案者は、審議の対象としない。

その結果、各委員の評価点平均が48点未満の提案はなかったことから、5者を審議の対象とした。

各委員の評価結果（点数の付け方、順位付けの判断）、評価の観点及び提案に対する見方について意見交換を行った結果、「総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者」と「各委員の順位点の合計がより高い提案者」が一致することから、「総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者」を選定することが妥当であることを全員一致で確認した。

以上から、「総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者」を設計候補者とし、次に1位獲得数が多い提案者を次点の設計候補者とする事で合意し、その結果に基づい

て以下の候補者を選定した。

#### 【総評】

大崎地区の3つの高校の再編に伴い、既存の専門学科や学びの取組みを基本としながら、新たな魅力ある職業教育拠点校を設置するためのプロポーザルでした。基本理念の『「食」をテーマとした様々な職業専門的学びを展開』が期待される中で、商業、家庭、農業各科の連携・協働のあり方、その建築的な提案がポイントとなりました。3科連携の象徴と拠点ともなる「高校生カフェ」のあり方、畑や農業系実習棟の配置、アプローチ及び玄関アクセス計画、教室配置、教室周りの計画などにおいて各社特徴のある提案でした。また、プレゼンテーションにおける意欲や思いにおいても、各社の特徴が感じられるものでした。

今後の設計プロセスにおける、より丁寧で密度の高いコミュニケーションへの期待、提案を基本とした上での計画詳細の検討やその中での柔軟性のある対応の可能性など、よりふさわしい設計者選定という観点から議論し、候補者を選定しました。

今回の拠点校の新築は、人口減少が続く地域、そして生徒数減少が続く高校における新たな時代の高校のあり方を提示する重要なプロジェクトであるとも言えます。ここで学ぶ高校生が誇りと自信を持って地域・社会に旅立ち、貢献することができるスキルとマインドを醸成する3年間の学び舎となることを大いに期待いたします。

最後に、多大な労力と時間をかけて、課題に真摯に向き合い提案をされた5者の皆様には、判定委員会委員一同、心からの感謝を申し上げます。

#### 【講評】

設計候補者：株式会社佐藤総合計画 東北オフィス

『畑が主役』の校舎をつくるという強い意欲のもと、「畑」を南東側に配置し、また「高校生カフェ」をアプローチ側に持ってきて新たな風景を作り出そうとした意欲的な提案と姿勢が評価されました。また校舎、高校生カフェ、および資材・農機具庫を独立して設置・建設することで、それぞれの特性を生かした空間や構造など柔軟な設計に余地を残す提案も評価されました。歩車分離の丁寧な計画のほか高校生カフェと校舎の昇降口を介して連続するラーニングコモングの提案、コンパクトではあるが交流スペースなどを適切に配置しながらまとめ上げた教室棟についても過不足ない計画でした。

ヒアリングを通して、3科の連携への意識、教育への理解、専門家との協働による設計の提案、食品加工実習室の丁寧な提案など、今後設計を進める上で適切で的確な設計に繋がることが期待される点も評価されました。

一方で、「コミュニケーションルーフ」と名付けた高校生カフェと校舎をつなぐ大屋根のあり方には改善の余地も残ること、畑の配置についても、今後の設計過程でより丁寧に学校

関係者と協議・検討する必要性なども確認いたしました。

以上を踏まえて、設計者選定というプロポーザルの主旨から、今後の協議と対話も含めて十分に資質があるものと判断して選定しました。農業に対する強い思いと意欲を今後の計画・設計の中で十分に反映させていくこと、学校関係者の声を丁寧に拾い、真摯に設計に向き合うことを強く期待するものです。

次点設計候補者：株式会社教育施設研究所

「学校全体がまなびと実践の場」となるよう、3学科の連携を意識した配置と多様な活動を支える各学科に設けられたメディアスペース、自由度のある教室前オープンスペースの設置、回遊性のあるコンパクトで明快な平面計画などが評価されました。農業系実習棟も丁寧な検討のもと配置を決めていることが窺われるなどの点、エネルギーやLCCを意識した的確な提案も評価されました。

一方で、中庭プラザは昇降口から畑への接続路としては理解できるものの、その利用イメージが希薄で十分伝わらなかったところが残念でした。また、職員室や保健室の配置においても、配慮と工夫が望まれました。3校再編による新しい学校の可能性の追求という点において総合的に及ばず次点となりました。

令和4年4月18日

大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校新築設計  
公募型プロポーザル判定委員会  
会長 石井 敏